

平成30年度 学校評価報告書

県立篠山鳳鳴高等学校

学校経営の重点等

1 教育方針

明治9年、私立篠山中年学舎の創設以来の建学の精神は、『一以貫之』である。この言葉は、一生涯を通じて真心や思いやりの心を大切にしたい生き方を貫くという志を表している。また、昭和26年、「学校の教育方針と生徒の生活目標との融合一体を示すもの」として制定された“生徒信条”が、今日までの校風と本校の歩みを導いてきた。

生徒信条 「1. 勉強第一 2. 正義の実行 3. 身体の強健」

いかに時代が変わろうとも、郷土を愛し地域社会の発展に寄与する人間の育成、自己実現を達成する自立した人間の育成、国際社会に貢献できる人間の育成は、本校の使命である。

2 教育目標

- (1) 地域社会の発展に寄与する人間の育成
- (2) 自己実現を達成する自立した人間の育成
- (3) 国際社会に貢献できる人材の育成

3 学校経営の重点

- (1) 自ら課題を見つけ、自ら解決していく力の育成
 - ア 教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に仲間と協力しながら課題を解決するような指導・学習方法を進める。
 - イ 総合的な学習の時間、探究の授業を通して、自己表現力をつけるための支援をする。
- (2) 個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養
 - ア 「ひょうご学力向上サポート事業」や「インスパイア・ハイスクール事業」を活用し、学力の向上を図るための教育環境づくりを進める。
 - イ ひとり一人の能力・適正に応じた教育及び学習指導を行うことにより、達成感があじわえ、生徒の喜びと学ぶ意欲を持って登校する学校づくりを進める。
 - ウ あらゆる行事や生徒会活動、部活動等で生徒が主体となって活躍できる場面を設け、達成感、充実感があじわえる活動を進める。
 - エ キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実させる。
- (3) 保護者や地域から信頼される学校づくり
 - ア ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会等を通じて、保護者や地域住民等に対して学校生活や行事、部活動等の情報発信を積極的に行う。
 - イ 保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。
 - ウ 「シラバス」(3年間を見通した教育計画)を作成し、生徒・保護者等へ配布するとともに、広く授業公開等を実施することにより、本校教育の信頼づくりに努める。

- エ 地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。
- オ 学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育に対する地域住民の期待や要望を教育活動に活かすことに努める。

4 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む）の重点

(1) 教科指導の重点

- ア 各教科・科目の「シラバス」を配布し学習到達目標、評価方法を明確に示し、生徒が学ぶ姿勢を確立できるよう絶えず指導、助言を行う。
- イ コース・類型・習熟度別授業及び選択科目の設置を工夫し、進路決定に適応できるカリキュラムの作成を研究する。
- ウ 大きな学力差を克服するための授業力向上を目指し、教員相互の授業見学・研究授業を活発に展開し、経験差による到達度や指導観点の相違点を埋める取組を実践する。

(2) 生徒指導の重点

ア 生徒指導

- (ア) 集団生活の規律を守る態度を育て、人間的なふれあいに基づく生徒理解に努める。
- (イ) 地域社会の構成員としてのマナーを学び、自覚と責任ある行動を身に付けさせる。
- (ウ) 生命の尊さと心と心の絆を重んじることのできる人間性を養う。
- (エ) 家庭や関係機関との連携を密にして、問題行動の的確な解決を図る。
- (オ) 統一した指導基準により、服装指導、挨拶指導、登下校の交通安全指導の確立を図る。

イ 特別活動

(ア) 生徒会活動

- a 自主的・自発的活動を援助し、行事の充実を図るとともに、委員会活動を活性化させる。
- b 生徒会として地域との連携を図る取り組みを企画、実施する。

(イ) ホームルーム活動

- a 自己実現に資する心豊かなふれあいの場として充実を図る。
- b クラスの一員として自主的に責任を果たし、互いに協力し合う実践力を養う。

(ウ) 部活動

- a 部活動への積極的な参加を呼びかけ、体力と精神力を高めるとともに、豊かで健康な生活を築いていく。
- b 学習との両立を図り、部活動の活性化を学校の力として文武両道の伝統を継承する。

ウ 進路指導

- (ア) 確かな学力を身につけ、能力・適性、興味・関心などの個性を伸ばすとともに、生徒自らが進路決定できるよう指導し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。
- (イ) 学校・生徒・保護者との共通理解を図り、効果的な学習方法の確立や的確な進路情報の提供を行うとともに、生徒の特性を活かした指導の徹底を図る。
- (ウ) 進路指導部と各学年、および他の専門部との連携を強化し、進路情勢を的確に分析し、それを生徒に還元する。

エ 人権教育

自己肯定感や人権意識を高めるとともに、多文化共生社会について考えを深め、思いやりの心・他者に共感できる心を育成する。

- (ア) 人権教育推進委員会を通じて各学年および専門部が共通理解を深め、人権HR活動や講演会により、効果的な人権教育を推進する。
- (イ) ネット社会におけるいじめや人権侵害、個人情報漏洩等に対する注意を喚起する。
- (ウ) 職員研修会を実施し職員全体の共通理解を図り、実態に即した指導方法を工夫改善し、指導力向上に努める。
- (エ) 関係機関との連携を図り、生徒の自己実現を目指した教育相談活動を進める。

5 健康管理に関する指導の重点

(1) 健康管理の推進

- ア 健康や体力について理解を深め、体育活動の実践を通して心身の調和のとれた発達を促す。
- イ 保健の授業を通じて、心身の健康や食育に関する知識を身につけさせ、「望ましい生活習慣づくり」を図る。

(2) 安全教育

- ア 健康と安全について関心と意欲を高め、危機管理に対する動機付けに結びつける。
- イ 心身の健康を増進し、事故災害に対しても安全を確保できる能力や態度を養う。
- ウ 応急処置や心肺蘇生法等を学び、安全教育の徹底と個々の生活環境を見直す契機とする。

6 校務分掌（学校要覧に掲載）

7 研究テーマ

- (1) 大阪大学連携指定校としての連携推進について
- (2) 「ひょうご学力向上サポート事業」を活用した学力向上の取組について
- (3) 「インスパイア・ハイスクール事業」の活用について
- (4) 「高校生ふるさと貢献活動事業」を中心に地域貢献事業について
- (5) 「障害者差別解消法」の施行に伴い、合理的配慮に基づいた特別支援教育を推進するための校内体制と研修のあり方について

8 高校生ふるさと貢献活動事業を中心に地域貢献として実施する内容

- (1) 「デカンショ囃子方講習会」、「デカンショバンドによる演奏活動」、「デカンショ踊り」。篠山市デカンショ保存会講師にご指導いただき、三味線、太鼓、尺八、篠笛の演奏技術や踊りを習得する。学校行事、地域行事において演奏披露をするなど伝承・広報活動を展開する。
- (2) 地域の教育機関・福祉機関・社会福祉協議会・市民団体等と連携し交流を深め、ボランティア体験を推進する。
 - ア インターアクト部、各部活動、生徒会、PTA が地域団体等と連携をとりながら、地域の行事等においてボランティア活動を行う。
春日能（4月）。デカンショ祭り（8月）。篠山車いすマラソン（9月）。篠山マラソン（3月）。篠山養護学校支援活動。ロータリークラブとの連携。神戸大学篠山フィールドステーションとの連携。
 - イ 地域ボランティア清掃
全校生とPTAが協力し、年間3回の通学路等の地域清掃活動を実施する。（5月、10月、3月）
 - ウ 国際交流推進活動
篠山市姉妹都市委員会との提携によりアメリカ合衆国ワシントン州ワラワラ市への短期留学やオーストラリアの姉妹校との隔年ごとの短期交換研修を行い、PTAとの共催による地域国際セミナーを開催する。
 - エ オープン・ハイスクール
 - (ア) 教育課程や様々な教育活動および部活動等を紹介する説明会及び公開授業を実施する。
 - (イ) 篠山市内を中心に、第2学区内中学校へ出向き、学校説明会を実施する。
 - (ウ) 近隣中学校の保護者や地域住民に対して学校公開日を設け、本校の教育活動を公開し開かれた学校作りを行う。
 - オ 地域研究交流会
地域の様々な分野の専門家から、その技術・活動の魅力に迫り、地域に根ざす努力を学ぶ。

9 高校生就業体験事業で実施する内容

教科・科目及び総合学習の職業研究を通して、望ましい職業観、勤労観を育成し、学校の学習と職業の関係について理解を促進する。

- (1) 第1学年の総合的な学習の時間で職業研究を実施し、職業観・勤労観を育成する。
- (2) インターンシップを実施する。
 - ア 事業所でのインターンシップ、医療機関での看護体験（2、3年希望者）

イ 職業体験活動（1、2年「体験活動」履修者）

(3) 「こどもふれあい体験」の推進

2年「家庭基礎」、3年選択「子どもの発達と保育」の授業で近隣幼稚園・保育園児と交流する。

10 高校生キャリアノートの活用

(1) 兵庫県教育委員会の「キャリアノート」を基に、生徒一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送る基盤を形成する。

(2) キャリアプランニング能力をはじめ、コミュニケーション能力や課題対応能力等、自立した社会人・職業人として将来に必要な能力の育成をめざすキャリア形成の支援に、家庭や地域との連携のもと取り組む。

11 総合的な学習の時間の有効的な活用

各学年の目標に従って、生きる力と豊かな心の育成を図る取組、講演会、ワークショップを実施。

【実施計画】

1年生・・・5月～7月進路研究、9月～1月地域研究交流会、2月ポスターセッション

2年生・・・5月～7月文献を読む、9月～12月ディベート、1月～2月進路研究

3年生・・・4月～5月模擬面接、6月主権者教育、7月進路講演会、9月～11月小論文講座、11月教養講座

学校経営の重点			
番号	経営の重点		具体的な取組
①	自ら課題を見つけ、自ら解決していく力の育成	1	教員からの一方的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に仲間と協力しながら課題を解決するような指導・学習方法を進める。
		2	総合的な学習の時間、探究の授業を通して、自己表現力をつけるための支援をする。
②	個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	1	「ひょうご学力向上サポート事業」や「インスパイア・ハイスクール事業」を活用し、学力の向上を図るための教育環境づくりを進める。
		2	ひとり一人の能力・適応に応じた教育及び学習指導を行うことにより、達成感があじわえ、生徒の喜びと学ぶ意欲を持って登校する学校づくりを進める。
		3	あらゆる行事や生徒会活動、部活動等で生徒が主体となって活躍できる場面を設け、達成感、充実感があじわえる活動を進める。
		4	キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実させる。
③	保護者や地域から信頼される学校づくり	1	ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会等を通じて、保護者や地域住民等に対して学校生活や行事、部活動等の情報発信を積極的に行う。
		2	保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。
		3	「シラバス」（3年間を見通した教育計画）を作成し、生徒・保護者等へ配布するとともに、広く授業公開等を実施することにより、本校教育の信頼づくりに努める。
		4	地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。
		5	学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育に対する地域住民の期待や要望を教育活動に活かすことに努める。

平成30年度学校評価項目

達成度を4段階(1できなかった 2あまりできなかった 3まあまあできた 4よくできた)で評価

1 学校経営の重点における自己評価

番号	領域	評価内容	対象となる具体的取組	平均	昨年度比
1		個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養	① 「インスパイア・ハイスクール事業」や「ひょうご学力向上サポート事業」を活用し、生徒自らが積極的に言語活動や探求活動等を通じて学力向上を図るための教育環境づくりを進める。	3	0.2
			② ひとり一人の能力・適正に応じた教育および学習指導を行うことにより、生徒が喜びと期待を持って登校する学校づくりを進める。	3	0.1
			③ キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより、生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実する。	3.2	0.3
2	保護者から信頼される学校づくり		① ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会などを通じて、保護者や市民等に対して学校行事や学年の取り組み、部活動などの計画や成果を積極的に発信する。	3.1	-0.3
			② 家庭訪問や面談等を通じて学年・学級担任等と保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。	3.4	0.1
			③ 総合的な学習の時間や高校生就業体験事業、科目「体験活動」等を通じて、職業研究、職業体験を積極的に進めることにより、生徒の健全な職業観や勤労観を培うとともに、進路希望の自己実現を支援する。	3.1	0.3
3	地域に信頼される学校づくり		① 市・市教育委員会、幼稚園・保育所、小・中学校等と連携し、地域で生まれ地域で育つ子どもたちの最終の公立学校（公的後期中等教育機関）としての責任を果たす学校づくりを進める。	2.9	0
			② 学校教育全体を通じて、地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習スポーツ、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、地域社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。	3.1	0.1
			③ 学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育の可視化を図るとともに、地域住民の期待や要望等を教育活動に活かすことに努める。	2.8	0.1
4	教職員が自信を持って働ける学校づくり		① 教材研究・授業研究や各種研修による授業の充実を図るため、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員ひとり一人の資質向上と心身の健康増進に努める。	2.6	0.4
			② シラバス（3年間を見通した教育計画）を作成し、教職員の共通理解と教育内容の平準化を図るとともに、シラバスを生徒・保護者等へ配布、授業の公開等により、本校教育の信頼づくりに努める。	3.1	0.2
			③ 教職員が互いを認め合い、気軽に相談できる職場づくりに努めることにより、教職員が自信と生き甲斐を持って働ける学校づくりを進める。	3	0.4

2 教育活動各項目における自己評価

番号	領域	重点事項	評価項目	平均	昨年度比	
5	学校運営	開かれた学校づくり	① 家庭や地域への情報発信 ② 地域、家庭、関係機関との連携 ③ 外部評価を活用した学校運営の推進	2.9	0	
6		生徒指導	① 生徒指導方針の確立と指導体制の推進 ② 生徒の内面の理解を図る指導の工夫 ③ 学年間の連携及び家庭との連携	2.8	0.2	
7		進路指導	① 進路指導体制の充実 ② 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ③ 生徒の自主的な進路選択能力の育成	3	0.3	
8		教職員の資質向上	① 実践的指導力の育成 ② 計画性を持った研修の充実 ③ 授業評価等を利用しての、授業改善への取り組み	2.8	0.3	
9		危機管理体制の整備	① 実効性のある学校防災マニュアル策定 ② 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	2.8	0.1	
10		勤務時間の適性化	① 事務の見直しと勤務の縮減 ② 会議等の精選及び短縮	2.8	0.8	
11		学校運営全般	① 学校行事の充実及び精選 ② 学年・学級経営の充実 ③ 各種委員会の充実	2.8	0.2	
12		教育課程	特色ある教育課程の推進	① シラバスに応じた適切な学習計画の推進 ② コースの特性を生かした教育課程の推進 ③ 多様な進路に対応した学習計画の推進	2.7	0.1
13			基礎・基本の定着	① 生徒の学力の把握と評価基準の設定 ② 授業改善の推進	3	0.2
14			個に応じた学習指導の徹底	① 評価方法の創意・工夫 ② 習熟度及び選択科目の設定による指導形態の工夫	3	0.3
15			総合的な学習の時間	① 生徒の自主的な活動につながる学習の工夫 ② 教職員の協働体制の確立	3	0.4
16	特別活動		① 自主的・実践的な活動の活性化 ② 学校行事の内容の充実	2.9	0.2	
17	特別支援教育・保健教育		① 特別支援教育の推進 ② 課題を抱える生徒への指導体制の充実 ③ 保健教育の指導体制の充実 ④ 教育相談の充実	3	0.2	
18	防災・安全教育		① 命を大切にす教育の推進 ② 防災安全教育の指導体制の充実	3	0.1	
19	人権教育		① 人権教育指導体制の確立 ② 確かな人権意識の育成	3	0.2	
20	環境教育		① 環境教育の指導体制の充実 ② 学校美化の向上	2.7	0.3	
21	学校図書教育		① 図書室の利用向上 ② 読書意識の向上	2.4	-0.1	
22	学校の個性化・特色化	① 研究指定事業（インスパイア・ハイスクール、ふるさと貢献事業 等）の推進 ② 外部講師の活用	3.1	0.1		

■各部、学年の重点事項

総務部					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
		○	各部と各学年との連絡・調整に努め、より円滑な校務運営を図る。	各大会、各学年、各種委員会の連絡・調整を綿密に行い、効率の良い公務運営が行えるようにする。	校務運営委員会や職員会議の議題の整理や準備、記録などをしっかりと行えた。さらに効率化を図り、確実かつ迅速に連絡・調整ができるようにしたい。
		○	行事予定を提示する。また、学校行事の精選と内容の充実を図る。	月間行事予定を2ヶ月前には、全職員に提示する。次年度の年間計画については、今年度の反省のもとに作成する。	各部と各学年との連絡・調整は比較的スムーズに行えた。学校行事についてはさらに検討を進めていく必要がある。
		○	PTA、地域社会との連携を一層密にし、開かれた学校づくりに努める。	PTA、地域社会との連携をし、鳳鳴祭(体育祭・文化祭)、校内長距離走大会等の学校行事の運営ができるようにする。	体育祭、文化祭、校内長距離走大会などを、PTAと連携し実施することができた。地域社会との連携は十分にできなかった。
○	○	○	高校生ふるさと貢献事業等を推進し、体験学習をはじめとして国際理解を深める。	全校生による地域の清掃活動や、「デカンショ節」の継承・広報活動をインターアクト部を中心に行う。また、留学を通じて国際理解を深める。	体育祭で全校生によるデカンショ踊りを行ったり、ボランティア活動として郊外清掃等を実施した。タイのローズガーデン校と姉妹提携をし、来年度より交流をしていく予定である。
		○	早期に学校危機管理マニュアルを作成し、全職員に周知徹底を図る。	7月・12月の年2回の防災訓練を実施し、防災・危機管理への意識を高める。次年度の学校危機管理マニュアルを見直し、作成する。	7月と12月には防災訓練を実施することができた。学校危機管理マニュアルについては、来年度見直しを行う予定である。
		○	オープンハイスクール等の広報活動を通じて、本校の教育方針や教育内容のPRに努める。	オープンハイスクールを開催し、来年度の時期についても検討する。また、ホームページの更新を迅速に行えるようにする。学校通信を発行し、関係機関に送付する。	来年度はオープンハイスクールを7月、11月に変更する予定である。HPIは更新が迅速に行えるシステムに切り替える予定である。次年度に向け、調和のとれたwebページにしていきたい。
		○	環境美化活動を積極的に推進し、学習環境の整備・美化に努める。	環境美化委員による清掃用具点検、大掃除後の清掃点検、ゴミステーションでの分別を行う。環境美化・清掃の年間計画を作成する。	平常の清掃も丁寧に実施できた。次年度は環境美化委員による清掃点検をさらに充実させるようにしたい。
○	○	○	生徒の読書活動を推進し、学校図書館(図書室)を自学自習、および読書や研究に活用できるよう整備と維持に努める。	図書館だより発行や図書当番など、図書委員を中心に全校生が本と触れあう機会を作る。また教科や学年と連携して、調べ学習等に図書館を利用する。	図書委員とともに図書館整備や読書活動推進に取り組めた。また、今後も教材や学年と連携して調べ学習等に図書館を活用し、生徒の図書館利用のきっかけ作りをしたい。
○	○	○	人権教育を通して、自己肯定感や人権意識を高め、互いの命と人権を尊重する態度の育成に努める。	「情報モラル教育講演会」、「命の教育講演会」を全校生対象に実施する。人権HRを各学期に計画する。教育研修として[LGBT]に関する研修を行う。	様々な人権問題について、発達段階に応じた課題目標をたてて取り組むことができた。次年度は、時代に合った課題についての教員研修を実施させたい。

教務部					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
○		○	授業時間数の確保をする。	考査日の設定などでより一層確保できる。	定期考査日の工夫をして確保に努めている。
○		○	教育課程の編成について、選択科目数、講座編成の見直しをする。	開講講座の見直しは引き続き行う。	継続も含めて見直ししていく。
		○	中学校教員、中学校保護者へのアピール	授業公開期間を長めにとりたい。	6月末に中学校教員向け公開授業、学校説明会を行った。
○	○	○	研究指定「ひょうご学力向上サポート事業」	新テストへ向けて	国語と数学について研究協議が始まる予定。
○	○	○	「先生になろう講座」	恒例となっているので続けていきたい。	7月に小学校教諭を招いて講座を開いた。。
○	○	○	授業評価改善	アンケートを9月、12月に予定している。	フィードバックが早くできるように努める。
○	○	○	総合的な学習の時間、探究について	昨年度からの見直しを活かし、来年へとつなげる。	計画を分析、見直しをしながら行っている。

生徒指導部(保健関係含)					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
	○	○	登下校マナーの向上	・毎月の定例交通指導、春秋のPTAと合同での交通指導、列車指導は予定通り実施できた。	・昨年度登下校時の事故が4件発生。 ・毎月の定例交通指導、春秋のPTAと合同での交通指導の実施。 ・列車指導の実施。
	○		生徒会活動の充実	・生徒会スローガンパネルの作成・展示。 ・朝のあいさつ運動の実施。 ・鳳鳴祭ポスター、その他校内掲示物の充実。 ・丹波学びっ子フェスタ、篠山市キャリア形成教育支援事業～夢プラン～への参加。	・鳳鳴祭(文化祭・体育祭)では生徒会が中心となり、行事の成功へ向けて指導していく。校外での活動も積極的参加できる取り組んでいく。 ・生徒会スローガンパネルの作成・展示。 ・朝のあいさつ運動の実施。 ・鳳鳴祭ポスター、その他校内掲示物の充実。 ・丹波学びっ子フェスタ、篠山市キャリア形成教育支援事業～夢プラン～への参加。
	○		各種生徒会行事の内容見直し		
	○	○	部活動活性化に向けて	・新入生対象の部活動紹介を行い、部活度加入率の向上を図る。 ・ノ一部活動デーの完全実施をめざし、メリハリのある活動を行う。 ・水泳や独奏(ピアノ)など本校の部活動にはない競技をしている生徒が、総体やコンクールに参加できるよう公式戦へ引率を行う。	・各部で計画的に休養日を設定し、活動できた。 ・生徒が活躍できる場を少しでも増やすことができるように水泳や独奏(ピアノ)など本校の部活動にはない競技をしている生徒の公式戦へ引率を行う。
	○	○	学校保健活動を推進する。	・運動部員・職員対象の心肺蘇生法講習は計画通り実施できた。 ・熱中症対策などクラス掲示についても計画通り実施した。	昨年度は部活動中のケガが17件発生。今年度も引き続き、運動部対象の心肺蘇生法講習や熱中症対策などを実施していく。
	○	○	安全な学校環境を構築する。	・学校薬剤師による水質検査、二酸化炭素濃度検査を実施。 ・生徒に対しての呼びかけを安全防火委員を通じて行った。 ・安全点検(定期)を環境美化委員会で行う。 ・照度検査・ダニ検査を実施	・各種検査では問題点はなかった。 ・来年度も各種検査を実施し、安全な学校環境づくりに取り組む。
	○	○	校内教育相談を継続的に実施する。	・カウンセリングマインド研修を2回実施。 ・カウンセラー、保護者、職員で連携を行い、継続的に生徒の対応を行った。	・教育相談の利用数を増やすために多方面からの声掛けやたよりで啓発を行う。 ・生徒が教育相談を気軽に利用したいと思えるようなイメージ作りを行う。
	○	○	特別支援教育を推進する。	・委員会を、年間を通じて行い、職員の共通理解を図る。 ・コーディネーター、学年、指導部、関係職員の情報の共有。 ・中学校訪問時の情報収集。 ・サポートファイル等の活用。	来年度も中学校からの情報やサポートファイルを活用し、支援を必要とする生徒が支障なく学校生活を送れるように取り組んでいく。

進路指導部					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
		○ ○	生徒のキャリア形成の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・71回生の公務員試験の状況は、最終的に内定者が5名、不調者は2名だった。民間就職も含め、希望者10名全員が就職の内定を得ることができた。 ・通常の進路講演会に加え、2年生は3月に、地域の職業人を招いた「夢授業」を実施する。またセンター試験説明会等と同時進行で、3年生の進路決定者に対して、地域の社会人によるキャリア教育を行うことができた。 ・3月に大阪大学から講師を招き、座談会形式で生徒の進路意識を高める機会を持つ予定である。 ・3年間を通じた、計画的・体系的なキャリア形成指導ができるよう、精査していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現2年生は、2月の段階で、11名の生徒が就職・公務員ガイダンスへの出席を希望している。そのうち8名は公務員希望である。全学年とも希望者に、ガイダンスや公務員模試を実施し、面接練習等を通じて勤労観を培わせることを考えている。 ・看護医療系進学希望者を対象に説明会を実施し、「ふれあい看護体験」「医師・薬剤師体験」等への参加を促す。 ・インターシップの案内の回数を増やし、生徒が進路意識を高められるように工夫する。 ・本校と提携を結んでいる大阪大学との連携をはじめ、京都大学や神戸大学など、様々な大学が実施している高校生を対象とした高大連携の取り組みに積極的に参加するよう、生徒に周知徹底を図る。
		○ ○ ○	生徒の主体的に学ぶ姿勢の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としていた進路閲覧室の環境を整えるとともに、放課後に自習ができる教室を新たに設置した。進路閲覧室に今年度より設置した生徒用パソコン2台は非常によく活用されている。 ・今年度より夏季・冬季・春季補習の準備を早い時期から進路指導部主導ですべて行い、生徒が受講しやすいようスムーズな運営を心掛けた。 ・1年生の学習合宿を12月に実施予定だったが、使用予定だった施設の閉鎖により、やむなくEnglish Day Camp(英語キャンプ)を代替で実施した。英語科の全面的な協力のもと、実践的に英語を用いる様々な活動を行った。事後の生徒アンケートの結果も大変良好で、英語運用能力の育成および学習への動機づけにつながる良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が利用しやすいように、進路閲覧室を整理整頓し、その使用についてのルールの特選及び徹底を図る。 ・生徒用の進路用パソコンについて、情報担当教諭の協力を得て、印刷機の設置など、さらに生徒が活用できるよう工夫する。 ・補習に関しては、早期から進路指導部が全体のイニシアチブを取り、講座の設定から教室配置にいたるまで、学校全体としての計画的な実施を進めることができた。さらに工夫したい。
		○	生徒・保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での進路指導委員会での連絡を通じ、迅速に教員に共通理解を図り、生徒への情報提供ができた。また「進路通信」の内容を充実させ、生徒と保護者が進路について考えるきっかけとなる情報にしたい。 ・保護者進路研修会を2回行った。今年度は第1回を、2年生対象の文理別の進路講演会に保護者も参加させていただく形で実施した。生徒たちの現状を保護者にも知っていただく良い機会になったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路通信」の発行回数を増やし、教員との共通認識を深めつつ、生徒へ情報提供を積極的にする。 ・保護者進路研修会の実施時期を、保護者が参加しやすい時期に設定する。また、より興味関心を持てる内容にする。
		○	部と学年及び学年間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導委員会を計画的に実施し、学年との連携を図った。 ・3学年と進路指導部での、進路に係る検討会も3回実施し、生徒一人ひとりの進路について、議論を深めることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導委員会を必要に応じて各学期に数回実施し、進路に係る懸案事項の解決を組織的かつ速やかに行う。 ・各学年会に参加する進路部員が、それぞれの学年の進路に関する課題を速やかに把握し、迅速に解決を図る。
		○ ○	主体的な進路選択を支援する進学指導	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対しては、大学入試新テストを始めて受験する学年として、e-portfolioの記入や振り返り等、折々に情報提供を行った。2年生では、夏季休業中にオープンキャンパスに参加してレポート作成を行うなど、できるだけ早期に目標とする大学を設定できるよう配慮した。3年生に関しては、進路相談のために進路指導室にやってくる生徒一人一人に対して、きめこまかな指導・助言を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の小テストや課題に誠実に取り組むよう根気強く指導することを通じて、日常の学習が進路希望実現においてもいかに大切かを生徒に理解させる。 ・生徒が「なりたい自分」に近づきよう、適切な情報提供を行う。
		○ ○	人や社会とかかわる力の育成と就職指導	<ul style="list-style-type: none"> ・上述の、2年生に対する「夢授業」では、篠山市内の身近な職業人約15名に講演をいただき、生徒の進路に対する意識の向上、職業観の涵養をする予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人にガイダンスの講演を依頼する等、生徒が、働くことについてイメージしやすいように指導内容を工夫する。
		○ ○	社会人として自立していくことができる教育「キャリア教育」を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員ガイダンスや看護医療説明会を実施することで、仕事内容や経験談を講師から聞くことができ、生徒はより具体的にイメージしながら学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県作成している「キャリアノート」を活用し、計画的に自らの進路について考えることのできる機会を増やす。 ・就職指導と重複するところもあるが、働くことの意義や喜び、大変さをイメージしやすいように指導内容を工夫する。

第3学年					
①	②	③	重点事項	具体的な取り組み	H30年度の振り返り
○		○	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・精神面で不調となる生徒を早期に発見し、支援する。 ・生活のリズムを崩さないように支援していく。 ・提出物の期限を守ることを徹底して習慣づける。 	遅刻する生徒が常習化する傾向はあったが、欠席については、卒業考査最終日(1/24)まで特に増えることは無く、長欠生徒も無かった。挨拶については、最近全校的に声が小さいと感じる。地域でも校内でも元氣よく交わす習慣をつけさせたい。
○		○	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、朝のSHRで、英語・国語・日本史/世界史(文系)・数学(理系)の小テストを実施。・週末課題を実施。 ・長期休業中、希望者対象に補習を実施する。夏休み中は前期7日、中期3日、後期7日。講座数は20以上。 	毎週の小テスト、希望補習や指名補習の実施により、生徒それぞれの進路に応じた学力をつけるサポートができたのではないかと。学年末に欠点は一人も出なかった。
○		○	部活動に積極的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活を継続する生徒に対し、学業との両立をサポートする。 ・6月に引退した大半の生徒に対し、卒業まで後輩の活動を見守り、範となる行動を促す。 	ほとんどの生徒が夏前に引退したが、2学期以降も継続する生徒や、進路内定後に活動する生徒もいた。83%の生徒が最後まで部活を続けた。
		○	保護者・地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中に三者面談を実施する。 ・必要に応じて家庭への連絡、家庭訪問を行う。 ・5月に保護者会を実施した。 ・地域の清掃ボランティアに参加する(2学期) 	進路決定に向けては、夏休み、冬休み、センター試験後に面談期間を設け納得のいく選択ができるように努めた。地域に対して学年として貢献できたのは2学期の清掃ボランティアくらいであった。
○	○	○	学年における情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜4時間目に学年会を開き、総務部、生徒指導部、進路指導部等からも参加して、学年の課題について協議する。 ・行事の運営や生徒状況等についても、意識の共有をはかる。 	毎週の拡大学年会で、総務・教務・進路・生徒指導の各部と連携をとりながら、行事・学習・進路等の教育活動全般について情報共有しながら行うことができた。
○			進路目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中の三者懇談等や生徒との面談で、各自の志望校・就職先を具体化するとともに、それに向けた具体的な取り組みを指導する。 ・昨年に引き続き、職業人を招き、人生や仕事についての質問に答えてもらう(1学期)。 	<p>進路指導部のサポートのもとで、生徒の進路実現に取り組み、就職希望者については、公務員・民間ともに全員就職が決定した。進学希望者については1月末現在、約半分が受験中である(半分は内定)。</p> <p>7月と1月には地域の若手職業人との少人数座談会を持ち、生徒たちは学校で聞けない多様な生き方を知り、励まされたり勇気づけられたりしていた。</p>
		○	安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部や総務部と連携しながら、ホームルーム等で指導を行う。 	生徒指導部や、総務部、養護教諭と連携しながら職員・生徒ともに講習会や訓練で意識を高めた。

第2学年					
①	②	③	重点事項	具体的取り組み	今年度の振り返りと次年度への展望
○	○	○	基本的生活習慣の確立	遅刻、欠席せず、提出物もきちんと出すということを、昨年から重点的に取り組ませてきた。昨年度はおおむね欠席も少なく、提出物も出せていたように思うが、2年に入り、欠席者はやや増えたように思う。少数ながら、欠席の続く生徒もいるので、保護者と連絡をとりながら家庭とも連携して、改善に取り組みたい。	生活習慣に起因する遅刻・欠席者はほとんどいなくなったが、家での学習時間をほとんど取っていない生徒が多く、学習計画表を書かせるなどして、自分の生活の見直しに取り組ませた。次年度は、進路選択の大切な学年となるので、挨拶、掃除、課題提出といった基本的な事柄を徹底させるとともに、規則正しい生活の中で、家庭学習が定着するよう指導していきたい。
○	○		基礎学力の定着	毎週の2回の小テストと週末課題で基礎学力の定着をはかっている。定期考査の前には、特別補習も実施し、苦手科目を克服できるようサポートに努めている。夏休みには、基礎から応用まで、学力に応じた講座を設定し、基礎学力の定着と応用力の育成を図ってきたい。	週末課題や小テストの実施による基礎知識の定着、考査前の指名補充などによる成績不振生徒の指導、長期休業中の希望者補習を実施し、基礎力の定着と応用力の育成に取り組んだ。来年度もこの取り組みを継続しながら、個々の学力や進路に合わせてより細やかな指導を図ってきたい。
	○	○	部活動に積極的に参加する	部活動の中核として、様々な場面で活躍を見せている。今後ますます各部においてリーダーシップを発揮してくれると期待している。また、生徒会活動においても、生徒会役員として学校活動をリードできる生徒を育成し、サポートしていきたい。	多くの生徒が、部活動のリーダーや幹部として活躍し、活動の運営や優れた成果に貢献してくれたように思う。次年度は、今まで積み重ねた努力の成果を期待すると共に、最高学年として鳳鳴祭などの学校行事でも活躍し、充実感や達成感により自尊意識を高めることが出来るよう、生徒をサポートしていきたい。
	○	○	保護者・地域との連携強化	生徒の学習面や生活面での心配事に適宜相談に乗り、必要に応じてこちらからも生徒の様子を家庭に連絡している。三者面談、保護者説明会等、家庭とのパイプを太くすることにも努めている。また、高校生が地域とつながれる機会を提供し、積極的に参加するよう促している。(ボランティア、部活etc)。	身体的・精神的な要因により欠席がちな生徒がいるが、保護者との連絡を密にし、養護教諭やカウンセラーとも連携しながら対応した。また、地域で活躍されている方に講演をしていただき、郷土のことや自らの進路実現のことについて深く考える機会を得た。来年度も、保護者会や三者面談、進路講演会やキャリア講演会などを通じて、より一層の保護者・地域との連携を図って行きたい。
	○	○	学年における情報の共有	毎週の学年主任、担任、副担任を交えての学年会で、生徒情報の共有化を図ると共に、各部との連携強化を図っている。また、学年の各教科の担当者を集めて、生徒情報を共有化する機会を設けている。	毎週の学年会において、生徒状況の把握や学習指導計画についての協議を、生徒指導部や進路指導部とも連携をとりながら行った。来年度は特に進路指導部との生徒情報の共有をよりいっそう深め、生徒の望む適切な進路の実現を図って行きたい。
	○	○	進路目標の明確化	各自の進路実現に向けての情報提供や指導を行っている。模試の受験を通して、現在の学力を認識させ、自分の学習課題の把握と、学力改善に向けての指導などを行っている。また、就職希望者にもガイダンスを実施し、就職に向けての意識を高めさせている。また、夏休みには大学等のオープンキャンパス参加等の課題を設定し、進路意識の向上と情報収集を図っている。	生徒の進路意識は高まりつつあるものの、具体的な進路先を選べたり、目標進路を絞れなかったり出来ない生徒が多い。進路実現に向けての情報をより細やかに提供し、生徒や保護者との面談により意思の疎通を図り、それぞれの希望に添った進路実現に向けて取り組んでいきたい。
	○		安全教育の推進	朝の交通安全指導、防災教育、情報モラル教育、日頃の呼びかけ等で、安全に対する意識を高める。	交通安全、防災教育について学年や各部と連携しながら取り組んでいく。社会で問題となっている情報管理の問題や情報モラルを守ることの大切さを、専門家を招いた講演会なども行いながら、しっかりと学ばせていきたい。

第1学年					
①	②	③	重点事項	具体的な取組	今年度の振り返りと次年度への展望
○	○	○	基本的な生活習慣の確立	オリエンテーション合宿で正しい生活習慣についての意識付けを行った。正しい健康管理、生活管理をホームルームを通じて呼びかけ、挨拶、清掃、提出物などの徹底を図った。	1月にインフルエンザが流行し、欠席者が増えた。それ以外の時期は欠席者は少なく、基本的な生活習慣はおおむね身についていると思われる。 遅刻する生徒や提出物の遅れが多い生徒には、継続的な指導を行う。
○	○		基礎学力の定着及び向上	毎日の授業を大切にすることを呼びかけると共に、小テストの実施や再テスト、課題の提出の徹底をはかり、必要に応じて補習や考査前の学習会を計画し、実施した。	授業における学習態度はおおむね良好であった。基礎学力の定着を図るため、朝のSHRを利用した小テスト(英単語、漢字、数学)を実施した。 定期考査前には、テストに向けての勉強会を実施した。また、長期休業中には、進路指導部と連携した補習を実施した。 来年度は、学習意欲をさらに高める取り組みを充実させる。
	○	○	部活動への加入	4月当初からの部活動への加入を呼びかけ、その結果、多くの生徒が部活に加入し、活発に活動している。	90%近い生徒が部活動に加入し、活動している。来年度は、各部の中核として部活動を盛り上げ、いろいろな場面で活躍してくれるものと期待している。
	○	○	保護者・地域との連携強化	学年通信の発行や保護者会の実施を通じて、学校での様子を知らせると共に、特に健康面や学習面で不安のある生徒に対しては保護者との面談等を行い、連携を図った。	学年通信、保護者会、三者面談などを通じて、保護者との生徒情報の共有や生徒指導の連携を図った。 また、かるた大会を通じて、地域の小学生との交流活動を行った。
	○	○	学年における情報の共有	週1回学年会を実施し、担任、副担任(各部の学年担当)で、生徒情報の共有や、指導計画の確認を行った。また、学年授業担当者会議を行い、生徒情報の共有を図った。	週1回開催する学年会で、専門部との連携を取りながら、生徒情報の共有と、指導計画の円滑な実施に努めた。 次年度も同様に、生徒の実態把握に努め、情報共有を図る。
	○	○	進路目標の明確化	総合学習の時間を使って自己診断テストなどを実施し、自己の適性を調べる共に、働くことの意義について考えさせ、進路実現に向けての意識を高めた。また、文理選択の説明会を実施し、進路希望調査を行うと共に、それをもとにした三者面談を計画・実施した。	自己診断テストを通じて、自己の適性を知ると共に、2年生での文理選択に向けての説明会を実施した。生徒それぞれの希望や適性に合った進路選択ができるよう、三者面談や個人面談などを行った。さらに、進路指導部と連携し、進路講演会を行い、進路についての知識を深めると共に進路意識を高めた。 来年度は、大学入試改革に対応するための情報収集と、生徒への情報提供を充実させる。
	○		安全教育の推進	LHRや学年集会において、交通ルールの遵守を呼びかけた。自転車通学者に対しては、全員が保険に加入し、自転車の安全点検も行った。情報モラル教育講演会を実施し、SNSの危険性やスマートフォンの過度の利用による弊害などの理解を深めた。	学年集会やホームルーム活動において、交通マナーの遵守を呼びかけた。 専門家の講演を通じて、スマートホンの安全な利用方法を学ぶと共に、SNS(ラインやツイッターなど)利用時の問題点や依存症の危険性を認識し、マナーを守り、適切に利用することを呼びかけた。